

家政学データベースによる家政学の研究動向 1

—家政学データベースの構成とその特徴—

○阿部幸子¹ 大竹美登利² 大森正司³ 城島栄一郎⁴ 田中岳文⁵ 戸田泰男⁶
山本政人⁷ 根岸正光⁸ (¹青山学院女短大, ²都立短大, ³大妻女大, ⁴実践女大,
⁵東京農大, ⁶共立女大, ⁷お茶の水女大, ⁸学術情報センター)

〔目的〕家政学における研究は、自然科学、人文、社会科学をも包含した生活の学である、といわれている。そのため研究対象領域も広く、各個別領域の研究動向はそれなりに把握されているものの、家政学全体の動向を把握することは困難である。本研究ではこの度、家政学における研究がデータベース化されたのを受け、これを利用して家政学研究の動向分析を行い、その特徴を明らかにすることを目的とする。

〔方法〕『家政学文献索引データベース』に登録されているデータ、約11万件をデータとして用いた。1949-1959、1960-1969、1970-1979、1980-1989、1990-1993に分け、また、家政学を各8分野にわけて出力し、時系列的、分野ごとに整理した。家政学対象雑誌として収録されているのは594誌、その内、紀要関係283誌、一般雑誌311誌である。

〔結果〕①出力データ総数は106,353件、これからの抽出キーワード総数は457,512、経年的にみると1949-1959年:8.7%、1960-1969年:14.9%、1970-1979年:19.8%、1980-1989年:31.9%、1990-1993年:24.2%であった。②分野間でみると原論:3,985、経営:24,271、家族:15,182、教育:23,919、食物:167,213、被服:92,328、住居:50,259、児童:71,195であった。